

る餘所のみぢ笠

〔我衣〕百重ハリノ陣笠、信長公ノ時作ル所ナリ、身ニ革具足ヲ著シ、頭ニ是ヲ冠ル、雜兵ノ具ナリ、治世ニナリテ後、武家ノ夏火事ニ冠ル、享保中ヨリ町人四季トモニ火事ノ節冠ル、享保年中ヨリいろは組ノ火消町々ニ役ヲツトム、依之人足小者等、下地竹ニテ網代ニクマセ、紙ニテ張、スミニテ染、澀ニテ止ム、○圖略

延享比ヨリ鐵砂ヲ塗コミ、或ハモヨウヲ置テカムル、コノ笠火事ノハレニ用ユルユヘ、ハヤルナリ、

〔御用留〕布衣以上御目見以上冠笠之儀ニ付御書付、

朱書

八月元治元年廿二日、大目付松平因幡守ハ差越

井上河内守殿御渡御書付寫壹通并別紙

御作事奉行衆 外國奉行衆 遠國奉行衆 小普請組支配衆

大目付

布衣以上之御役人、是迄端反笠相用候處、不便之品ニ付相廢し、以來布衣以上以下諸役人御番方等御目印にも相成候之旨、登城并諸場所罷越候之節、陣笠左之通相心得、來月朔日より相用候様可被致候、尤大目付御目付御使番之儀は、是迄之通可被心得候、

布衣以上 表黒裏金 御目見以上 表藍裏金

但正面江別紙雛形之通、輪拔金箔、又はかなものにて勝手次第付可申事、

右之通、萬石以下之面々江不洩様可被相觸候事、

八月

〔嘉永明治年間録十二〕文久三年九月、布衣以上以下陣笠ノ色ヲ分ツ、